

しおさい



砂丘の日の出(尻労)

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ⑩ ふるさと見聞録：白糖を訪ねて……………2
- 明日へのかけはし：東通村森林組合……………4
- ファイト!わんぱく：東通小学校女子バレーボール部……………4
- クローズアップ こんなには元気さん：中里市松さん……………5
- 地元の特派員レポート：佐々木貴博くん／加糠晴彩さん／橋本喜一さん……………6
- 達人がつくる簡単料理!：東通牛冷しゃぶ野菜マヨソース……………6
- 野牛産ホタテ塩焼きそば……………7
- 東通村との『絆』を大切に!発電所インフォメーション……………8
- 省エネ ワンポイント情報!……………8

vol.11

平成24年7月発行

若手が原動力となる頼もしい集落!

しらぬか 白糠を訪ねて

漁業が盛んな、歴史ある村内一大きい集落!

東通村の太平洋岸、最南端に位置するのが白糠集落です。江戸幕府が360年以上も前に作らせた「正保国絵図」に「白糠」の記載があり、「東北太平記」には「白糠武蔵」という南北朝時代における北軍の武士が登場。北海道の「白糠」も、この地から伝わったのではないかとされています。

古くからの名字は、「きたのいえ」と称する伊勢田家、「みなみ」を名乗る西山家、武士を泊めた東田家に勢力があったそうです。世帯数は約430戸で、現在、東通村内で最も大きい集落です。

基幹産業は漁業。古くは塩を作り、長崎俵物としてナマコやカゼ(ウニ)が御用買上品だった記録も残されていますが、現在は、地区の半数以上がサケ、マス、イカ、ヒラメ漁に従事しています。

村社である「赤岩神社」は、安永2年(1773)勧請と歴史があり、平成19年(2007)には、海岸沿いから高台へと移転再建がなされました。毎年7月18日の大漁祈願祭、19日20日の例大祭には港まつりも行われ、舟形の山車が運行し賑わいます。お正月には権現様を奉じて毎戸を祈祷。能舞も盛んです。

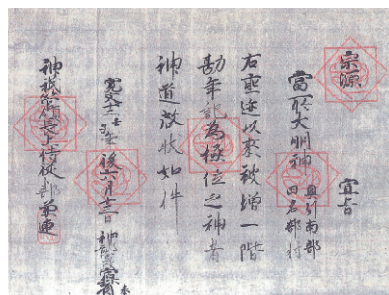
部落会、^{ゆうせいぐらうかい}勇清倶楽会を中心に、子供会育成会、婦人会の活動も活発で、団結心の強い、まとまりのある地域です。



赤岩神社



大正時代の赤岩神社



寛文期(1660年代)の宣旨書

能舞やヤメボリなど、かつては青年会が行っていましたが、大正5年、能舞など好きな人が集まって「勇清倶楽会」が結成されました。昭和48年からは、幼、小、中、高の生徒に能舞を伝承しています。白糠の能舞は、踊りのテンポが早く勇ましさが違います。地元の人が楽しみにしています。能舞の伝統を守り、絶やさぬよう、みんなの理解を得ながら、ずっと続けていきたいと思っています。



勇清倶楽会 前会長
澤頭 進さん(61歳)
(さわがしら すずむ)

お正月の門付けに始まり、集会所に毎年100人以上もの人が集まる白糠能舞発表会、赤岩神社例大祭での獅子振り、春の「病追い(ヤメボリ)」などを行っています。会員は高校を卒業した10代から約170人。そのうち20人が、子どもたちに能舞を教えるながら伝統を受け継いでいます。発表会を見に来た人に「今年も良かった」と感動してもらえようかな舞いを続けていきたいと思っています。



勇清倶楽会 会長
澤田 勝人さん(42歳)
(さわだ かつと)



藁人形で鬼を払う「病追い(ヤメボリ)」

白糠地区では、地区の入り口2カ所に藁人形を立て、悪い病や鬼が入らないよう祈る「病追い(ヤメボリ)」の伝統行事を行っています。等身大の藁人形を立てるのは村内でもここだけで、出稼ぎが盛んだったころ一時中断したものの、勇清倶楽会により復活。毎年4月8日(お釈迦様の誕生日)に近い日曜日に行っています。

地区の入り口に立てるのは、藁人形と大草鞋。紙の鎧を着せ、鬼の面をつけた藁人形は門番の役目。大草鞋は、この地区にはこんなに大きな草鞋を履く人がいるから、鬼が入って来てもすぐに退治されてしまうという意味が込められているそうです。

ヤメボリ当日は、権現様にお神酒をあげてお祓いしたあと、ホラ貝を先頭にお囃子を響かせ、地区内を一周して無病息災を祈ります。



伝統行事の
病追いの藁人形

白糠地区部落会長

にしやま いしお
西山 石男さん(73歳)

村内で最も人口の多い白糠地区は、海の幸がとにかく豊富です。漁師が半数以上だから、ぼくにとって頑固だけれど、面倒見のいい人たちばかりです。平成19年、赤岩神社を移転したときも、地区民が一丸となり再建。夏まつりは大勢の人で賑わいます。また白糠は坂の多い地域です。今、白糠トンネルとバイパスの工事が行われており、完成に期待が高まっています。



赤岩神社氏子 総代理
赤田 良治さん(57歳)
(あかだ りょうじ)

赤岩神社が再建されるまで、御神体は我が家にあり、12月19日と1月19日は、会員全員にお膳でおもてなしをしていました。7月19日の例大祭が盛大に行われる白糠地区は、信仰心の厚い集落です。
心のよりどころとしての神社が機能していけるよう、頑張りたいと思います。

明日への かけはし

東通村森林組合

森林整備と木材加工で
「地産地活」を推進!

スギやヒバなど苗木の生産から製材加工まで、一貫した管理・販売体制で、森林整備と素材の生産、東通産木材の「地産地活」を進めているのが、東通村森林組合です。

昭和16年、林業の生産と地域産材の加工流通などを協同で行うことにより、森林所有者の経済的安定と東通村の森林生産力を増強しようと設立されました。村には民有林が多く、現在、606人の組合員が加入しています。

具体的には、植林、間伐、伐採のサイ

クルで森林を整備し、木材を生産。高度成長期に造林したスギなどが伐採時期に入ったことにより、これまで伐採し他所へ販売していた材木に付加価値をつけようと、平成13年には加工センターを設置。丸太を角材にし、乾燥して販売し、それらは東通小学校や、電力会社の寮、集会施設などで使われ「地産地活」に役立っているのです。また組合員が家を建てるとき、自分の山の木はまだ小さくても、組合員同士が伐採期の木材を使うことでサイクルを確立。

子どもたちに地元産木材の良さを伝えようと産業祭りで木工教室を開催したり、出前授業なども行っています。

東通村森林組合の杉本文悦参事は「木は伐採して住宅部材になっても生きています。水分を吸って空気の洗浄までしてくれるから、心が和み健康にもいいんですよ。また東通の風土に合った地元産木材は、丈夫で長持ちします。組合では角材1本からでも販売しているので、ぜひ一度見に来て下さい」と話していました。

東通村森林組合の皆さん



丸太を一気に角材加工



スギやヒバなど地元産木材の素晴らしさを語る杉本参事



産業祭りで行われた木工教室



東通小学校 女子バレーボール部

バレーボールが大好きで、みんなでボールをつなぎ、1点を取ろうとするチームが、東通小学校女子バレーボール部です。小学校統合と同時に結成され、下北地区大会では3位入賞を果たしています。

部員は4年生から6年生までの13人。自らも学生時代バレーボール部員として活躍した、津嶋由香先生が指導にあたっています。

練習は週4日間、午後4時から6時まで。声を出し合い、

準備運動とストレッチを行ったあと、ダッシュ、パス、サーブ、スパイク、レシーブと進めていきます。試合前はサーブを重点に、コーンを置いて狙いながらの練習も行います。送迎バスの時間があるため、限られた時間の中で、いかに効率よく集中して練習するかがポイント。

キャプテンで6年生の相内萌理さん(12)は「誰かが失敗してもカバーし合い、1つのボールを6人でつなげていくところが、とても楽しいです。これまで地区で3位が最高成績なので、今年は2位以内に入り、県大会に出場したいです」と抱負を話してくれました。

津嶋先生は「バレーボールの魅力は、スーパー選手がいなくても、1人1人が絆を深め、思いやりと仲間意識を持て

アップ こんにちは 元気さん

元気さん

尻屋牧屋組合
寒立馬管理人

なか ざと いち まつ

中里市松さん(58歳)

青森県天然記念物に指定されている、東通村尻屋崎の寒立馬。今回は、地元で「番爺」と呼ばれている尻屋牧屋組合の寒立馬管理人にインタビューしました。



寒立馬は、南部馬を祖として小ぶりで寒さと粗食に耐え持久力に富む田名部馬と、フランスのブルトン種を掛け合わせ、軍用を目的に育てられてきた馬のことです。元々は尻屋地区の個人が育てていた馬でした。昭和45年、極寒の中にたたずむ勇姿を「寒立馬」と詠ったことから、そう呼ばれるようになったようです。現在寒立馬は、母馬20頭と、2歳馬12頭、当歳馬10頭が、元気に育っています。(7月1日現在)

中里市松さんは、これらすべての寒立馬の健康管理などを行い、馬の番をする「番爺」と呼ばれる寒立馬の管理人です。出身は東通村目名地区。三本木農業高校を卒業後、首都圏で働

いたあと、(社)東通村産業振興公社で東通牛の肥育を経験し管理人となりました。「子どもの頃、家でも牛や馬を飼っていたので、最初から大変だと思ったことはないですよ」と中里さん。

尻屋崎灯台付近に放牧されている寒立馬は、出産間近にパドックで餌を与える以外は自由です。4月から6月に出産時期を迎え、11月まで放牧。12月から3月までは「アタカ」と呼ばれる場所に移って越冬。種馬は5月から8月まで1頭が放牧されているそうです。

中里さんは、毎朝約6キロの放牧地をひと回りして、1頭1頭元気であるか確認します。「今はちょうど出産シーズン。子馬は満潮時に生まれると言われてるけど、関係なく自然分娩する親馬もいる。子馬は無事に生まれたか、親馬の後産は落ちたか、特に気をつけて見えています」。

普段おとなしい馬でも「寒立馬は気分次第で急変することもあるんです。最初は、いきなり蹴られたこともありました」と苦笑い。

すべての馬には「天里」「夕姫」「東風」など、名前が付けられていて「1頭だけ



母親の乳を飲む子馬

真っ白な馬がいたんですが、16歳で老衰により亡くなったときは悲しかったです。飼育馬は25年くらい生きようですが、寒立馬は1年中放牧されているので寿命が短いんです。でも子馬が生まれたときは、すごく嬉しい。自分の子どもみたいな気分。元気に大きくなってくれ!と見守り願うばかりです」とにっこり。

「寒立馬を見にくるのは観光客がほとんどです。地元・東通の人は、いつでも見られると思っているんでしょう。でも春の出産シーズン、子馬が自分の力を振り絞って立ち、歩く姿や、母馬にぴったり寄り添う姿は感動的です。ぜひ村民の方にも、見に来て欲しいと思います」と話していました。



生まれたての子馬を見守る中里さん

ば強くなれるということ。子どもたちにはもっともっとバレーボールの楽しさを伝えたいし、最後まで諦めず、目標に向かって頑張る気持ちを持って欲しい。将来、高校で活躍できる選手に育ってほしいと思います。まずは今



みんな仲良しの女子バレーボール部員

年度、地区大会優勝を目指します」と話していました。



レシーブの練習もしっかり



セットプレーに汗を流すこもたち

キャプテンの
あいうもえり
相内 萌理さん
(6年)





東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

●写真は特派員が自ら撮影したものです。



自然豊かな ひとみの里

東通村砂子又在住
東通小学校(6年)
ささき たかひろ
佐々木 貴博くん
(12歳)

ぼくの住んでいるひとみの里は、東通村の中心部にあります。東通村の数多くの部落の中で一番新しい部落です。

ひとみの里は、ぼくが通学している東通小学校から歩いて5分と、すごく近いです。

ぼくは、小学校4年生の時からお父さんの影響を受けて、ソフトテニスをやっています。

今年は、新入部員もたくさん入り毎日部活が楽しいです。ただ、ぼくが来年から通学する東通中学校には、男子のソフトテニス部がないので、



テニスの練習



僕のうちのそばから見える東通小学校

とても残念です。学校への要望事項にもあげていますが、進展はないようです。

ぼくがひとみの里の好きな所は、役場近くの鯉がいる池です。時々、鯉にえさをあげに行っています。5月中旬には、桜が満開になってとてもきれいです。みなさんもぜひ、見に来てください。



役場近くの池にいる鯉



桜の花満開のひとみの里



尻労は魅力 いっぱい!!

東通村尻労在住
かぬか はるな
加藤 晴彩さん
(22歳)

尻労の魅力は漁業が盛んなところですよ。大型定置網漁業、底建網漁業、イカ釣漁業など様々です。

みらい大橋という大きな橋を下りると、活気のある港があり、ここでは、毎日朝早くから漁師さん達が漁にでています。

マグロは大間が有名ですが、尻労で揚がるマグロも負けてはいません。ほと



みらい大橋欄干



尻労漁港からみらい大橋を望む

達人がつくる簡単料理!

東通牛冷しゃぶ野菜マヨソース

〈材料〉(4人分)

牛しゃぶ用肉/400g、ブロッコリー/2玉、トマト/2個、オクラ/8本、塩/少々、万能ネギ/少々

〔マヨソース材料〕

マヨネーズ/大さじ6、牛乳/大さじ4、酢、粉チーズ/各大さじ1、砂糖/少々

〈作り方〉

- ①ブロッコリーは小房に分け、オクラは切り口を少し切り落とし、トマトは食べやすい大きさのくし形にします。マヨソースの材料を混ぜておきます。
- ②鍋にお湯をたっぷりわかし、沸騰するくらいの火加減にします。牛肉を1枚ずつ広げて入れて茹で、色が変わったらペーパータオルを敷いた皿に取り出します。アクを取り、塩を入れて中火にし、ブロッコリーとオクラをそれぞれ1~2分ずつ茹でて取り出します。
- ③オクラを縦半分に切り、ブロッコリー、トマトとともに、皿に盛り、牛肉を盛り合わせて仕上げます。万能ネギを添えたマヨソースをかけていただきます。



達人のワザ

- 牛肉は、キッチンペーパーで水気をしっかり切ると、美味しくなります。
- ソースに、牛乳と粉チーズを入れることで味がまろやかになります。



築地へ出荷される尻労のマグロ

んだのマグロが東京の築地に出荷され、セリにかけられています。

他にも春にはサクラマス、夏にはイカ、秋には鮭など、四季折々の新鮮でおいしい魚が水揚げされています。

この他にも尻労には多くの魅力があり、そんな尻労が私は大好きです。尻労の魅力をもっと多くの方に知って欲しいので、ぜひ遊びに来て欲しいです。



水揚げされたサクラマス



歴史に 思い馳せる 猿ヶ森!

東通村猿ヶ森在住
はしもと きいち
橋本 喜一 さん
(62歳)

東通村は海山の自然に恵まれ、その自然を大事にし恩恵を授かっています。また、ある時代は厳しい環境を乗り越え人々はこの地で生活を営んできました。歴史的にも古くは、旧石器時代から縄文、中世、近世の遺跡が村内各地域で確認され、その数132ヶ所以上と県内でも遺跡数は多い村となっています。

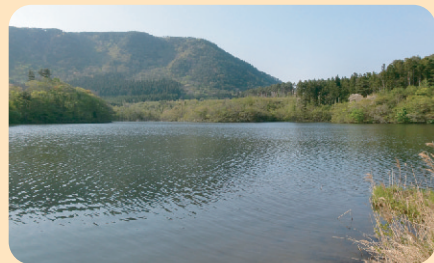
猿ヶ森地区においても海岸に面した小高い台地状の場所から縄文早期の遺跡が発見され発掘調査も実施されました。昭和37～40年前半まで、タテ沼とアカ沼周辺で開墾が始まり、畑や水田が造られ、その時に縄文中期、後期の遺物が大量に出土しており、集落近くでは製鉄跡が6ヶ所確認されています。



アカ沼の水源なる湧き水



石器等の表探した砂地



千軒台の伝説に名のでる大沼

鉄製品の普及する時代を迎え、人々も内陸部へと移動して現在の地に落ち着いたのかなと自分なりに考えたりしています。

集落の小高い場所に、本家杉本喜代太郎宅がありその南側には地上から13m、幹回り約3.7mのイチイの巨木がしっかりと地に根を張り堂々とした姿で佇んでいます。そして地上から約4m程の幹の中央に空いたホコラからは、幹の直径約20cmの山桜が、イチイの枝に負けじと伸び、今年の5月19日に淡いピンクの花びらを満開に咲かせていました。また、東側にある2棟の宅地周辺にも同時代に植えられたと思われるイチイが4本立ち、それぞれの枝振りを見上げていると、集落の人々と係わり、時代を越え成長してきたその歴史の重みをあらためて感じました。



杉本喜代太郎宅のイチイの巨木

野牛産ホタテ塩焼きそば

〈材料〉(4人分)

ホタテ／320g、塩／少々、長ねぎ／1本、サラダ油／適宜、中華蒸しめん／4玉

〔合わせ調味料材料〕酒／大さじ6、鶏ガラスープのもと／大さじ2、醤油、砂糖／小さじ2(各)、おろしにんにく／小さじ1/4、塩／少々

〈作り方〉

①ホタテは1玉を1/2に切って塩をふります。ネギは7～8mm幅の斜め切りにします。合わせ調味料は混ぜ合わせておきます。

②中華めんを耐熱皿に入れてラップをかけ、1分ほど電子レンジで加熱して麺をほぐします。

③フライパンに油小さじ1を入れて熱し、ホタテを入れて炒め、焼き色がついたら長ねぎを加えて炒めます。長ねぎがしんなりしたら中華めんをほぐしながら加えて炒めます。油がまわったら合わせ調味料を加えて炒めます。盛りつけて出来上がり。



達人のワザ

- ホタテは形をくずさないように炒め、焼き色をこんがりつけると、麺とホタテの味がマッチして美味しくいただけます。
- 長ねぎは炒め過ぎないように注意し、シャキシャキ感を楽しんで!

今回の達人



ファミリーレストラン 義亭
すぎやまよしのび
店主 杉山義信さん(56歳)

●プロフィール

横浜町出身。高校を卒業後、東京・荻窪のトンカツ店で修行。北海道・洞爺湖のペンションなどでシェフを経験後、平成7年、むつ市に自分の店を開く。「お客様の要望に合わせて、パスタからトンカツまで、美味しい創作料理をリーズナブルに提供したい」と話している。

東通村との『絆』を大切に! 発電所インフォメーション

発電所
トピックス

強豪相手に発電所員も奮闘! ~東通村春季ゲートボール大会に発電所チームも参加~

5月27日(日)に行われた第21回東通村春季ゲートボール大会(主催:東通村)に、当発電所のゲートボールサークルメンバーも参加しました。

競技のかけ引きを楽しみながら、東通村の方々との交流を深めることができました。



真剣なまなざしで第1ゲート通過を狙う



強豪チームの巧みなテクニックに翻弄される
〈赤色のゼッケンを着ているのが発電所のメンバーです〉

発電所
トピックス

2 東通村の夏を盛り上げるぞ! ~よさこいチーム『風舞翔吹』練習開始!~

電力企業体よさこいチーム『風舞翔吹』は、この夏に開催予定の「よさこい下北」に向けて、15名の新社員を新たなメンバーに加え練習を始めました。

今年は曲と踊りを一新し、新たな振り付けを一つ一つ確認しながら、日々練習に励んでおります。

祭り当日には躍動感ある舞を披露し、チーム一丸となって東通村の夏を盛り上げていきたいとおもいますので、ご声援よろしくお願いいたします。



練習に熱が入るメンバーたち



祭り当日には華麗な舞をご披露します

省エネ
ワンポイント
情報

東北電力は、地域に「緑のカーテン」を広める『緑のカーテン運動』に取り組んでいます。「緑のカーテン」は、ツル性の植物を、窓の外に這わせるように育てた「植物のカーテン」のことで、自然の力を利用した夏場の省エネ対策として近年注目されています。

皆さまもご自宅や職場などで「緑のカーテン」を育ててみませんか。

「緑のカーテン」の効果

●日差しをさえぎってお部屋を涼しく

たくさん茂った葉が、窓から入る直射日光をさえぎるので、室内温度の上昇を抑えます。さらに、建物の壁などに熱を蓄積させないので、ヒートアイランドの緩和にも役立ちます。

●葉から蒸発する水分が周りの温度を下げます

植物が根から吸った水分を葉から蒸発させ、周りの熱を奪います。さらにその水蒸気を含んでいる「涼風」を室内に取り込めば、エアコンなど冷房機器の使用を抑えることができます。省エネになります。



「緑のカーテン」とは

「ゴーヤ」や「アサガオ」などのツル性の植物を、窓の外や壁面に張ったネットなどに這わせて、カーテンのように覆ったものを「緑のカーテン」といいます。

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」「植林木」を使用しています。

編集後記

広報誌『しおさい』は、昨年1年間、発行をお休みさせていただき、今号から発行を再開いたしました。

お休みいただいている間、皆さまからは次号の発行を望むお声や温かい励ましのお言葉をいただき、大変ありがたく思っております。

これからも地域の皆さまに役立つ情報誌として、また、東通村の良さを再発見・再認識し、東通村の誇りを共有できるような広報誌づくりを目指してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

